

第1回 久万高原町都市計画マスタープラン等策定委員会 議事録

令和3年2月15日（月）に第1回久万高原町都市計画マスタープラン等策定委員会を開催しました。



■ 会議の流れ

- 1：開会
- 2：委嘱状交付
- 3：町長あいさつ
- 4：委員紹介（16名中14名出席、1名代理出席）
- 5：委員長及び副委員長選出
- 6：議事
 1. 都市計画マスタープラン・立地適正化計画について
 2. 久万高原町の現状
 3. 住民アンケート調査結果について
 4. 主要課題の整理
- 7：閉会

■ 委員等からの主な意見

【質疑応答】

- 都市計画マスタープランは、概ね20年間の計画とのことであるが、立地適正化計画は、何年間の計画か。
 - 立地適正化計画は、策定後5年毎に見直し、目標に対する評価・分析を行う。また、今回の計画策定時に、居住誘導区域内における人口密度などの定量的な目標を設定する予定。
- 都市計画区域外の地域の今後のあり方や方向性についても検討するのか。
 - 都市計画マスタープランにおいて、町全域における全体構想のほか、旧町単位での地域別構想も検討する。
- 土砂災害や浸水想定など、町中心部における災害リスクや対策については、今後、議論されるのか。
 - 立地適正化計画の「防災指針」のなかで検討していく。
- 高校生アンケート調査だけでなく、中学生を対象としたアンケート調査も実施してはどうか。
 - 総合計画策定時に中学生を対象にアンケート調査を行っているため、その結果を分析するとともに、必要があれば実施の可否について検討する。
- 現在策定中の第2次久万高原町総合計画（後期基本計画）では、木質バイオマス発電に関する取り組んでいくとしているが、都市計画マスタープランでも位置づけはできるのか。
 - 都市計画マスタープランのなかで、土地利用方針として住宅・商業・工業ゾーン等に区分した際に各ゾーンにおける計画として、ある程度記載することは可能と考える。

【その他意見など】

- 移住・定住施策を推進し、若年層にも住み続けられるまちづくりを進める必要がある。
- 情報通信に関しては、現在、光ファイバー回線の整備が進められているが、移住者や若年層にとっては重要である。
- 情報通信の整備を進めていけば新型コロナウイルスが落ち着いた後でも、久万高原町で住みながら働くことも可能になる。
- 高校生アンケートで「久万高原町に住み（続け）たい」と回答した生徒が約 5 割いることに驚いた。
- 地域によっては公共交通の利便性が低いエリアがあるため、交通利便性が向上するようなまちづくりを進めてほしい。
- 今後ますます農業の担い手不足が懸念される。久万高原町の約 9 割を占める山地を活用したまちづくりを考えてほしい。
- 立地適正化計画で人口を集約するのであれば、木質バイオマス発電など、再生可能エネルギーを利用した脱炭素社会についても、関係部署と連携して今後進めていくべき。
- 現在策定中の第 2 次久万高原町総合計画（後期計画）との整合を図って進めてほしい。
- 久万高原町は山が多く観光資源の宝庫。観光で来ていただくお客様目線でハード整備だけでなく、ソフト事業についても検討してほしい。
- 農林業とは異なり、商業の後継者育成には補助制度がない。立地適正化計画の誘導施設として、スーパーマーケット、商店等の商業施設を位置付けるのであれば、商業者への支援も検討しないと、中心市街地から商店街が消えてしまう。
- 久万高原町の住みやすさや魅力を活かせば、松山市のベッドタウンにもなり得る。
- 20 年後のまちづくりを検討する際、車の自動運転を考慮した計画が可能であれば、地域を結ぶ道路ネットワーク整備の必要性が増してくる。
- 面河地域の公共交通に関しては、伊予鉄南予バスとだんだんおもご（面河地区地域運営協議会）により公共交通空白有償運送を実施しているが、まだまだ交通空白地帯が多いため、空白地解消にむけ、両者が協議しているところである。
- 美川地域では、地域コミュニティの維持や自治会の存続が課題となるなかで、地域運営協議会の立ち上げやリーダーとなる人材の発掘・確保が必要。
- 柳谷地域でも、地域運営協議会の立ち上げる方向となっているなかで、移住に関しては、移住の部署だけでなく、住宅、教育といった関係部署の連携が必要。一部地域で、法人による空白地帯における公共交通を試験的に運用しているが、利便性に欠けるところもあるので、ICT や自動運転に期待したい。